

北区 南浜地区コミュニティ協議会（福祉部会）

活動名：ロコモ予防サポーター育成講座

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

高齢化が進んでいる南浜地区において、健康寿命の延伸等が大きな課題となっている。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

中高年者が骨、筋肉、関節などの障害や疾患による移動機能の低下により、自立した日常生活が困難になると言われている。この予防に向けたロコモ予防運動等の普及を目指すとともに、地域に普及する人づくりを図る。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

ロコモ予防サポーター育成講座の開催

期 日 8月19日～11月18日 6回

内 容 リズム運動、レクリエーション、グループワーク、ミニ講座

参加者 66名

講 師 新潟医療福祉大学 小林量作教授、高齢者体力づくり支援士 宮北栄利子

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

新潟医療福祉大学、新潟市北区社会福祉協議会、新潟市地域包括支援センター阿賀北

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

ロコモ予防運動等の普及を図ることができた。また、地域における運動の普及方法等について話し合うことができたとともに、地域の茶の間等の中で、運動を広めることができた。さらに、各自治会からの参加者の交流が図れた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

南浜地区内にある新潟医療福祉大学の指導を受けるとともに、北区社会福祉協議会、地域包括支援センター阿賀北との連携を図った。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

参加者のロコモ予防運動等に関する知識・技術の向上を図るとともに、運動等の普及を図るためにロコモ予防サポーターステップアップ講座を開催した。引き続き人づくりに努めるとともに、健康寿命の延伸に努め、高齢者等が住みやすい地域づくりを目指したい。



北区 濁川地区コミュニティ協議会

活動名：クリーン作戦

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

- ① 以前は濁川地区社会教育推進委員会が行っていたが25年度から中止していた。
- ② 代替組織や機能が無く、環境整備や不法廃棄物の処理が必要となった。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

- ① 各自治会のエリアと重点エリアを設定し、年1回（秋）実施する。
- ② 重点エリアを作業し、後に各自治会エリアの作業を行う。
- ③ 小学校や中学校にも応援を依頼、また未就学児童と親の参加を呼びかける。
- ④ 時間制ではなく、完全実施を第一とする。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- ① 参加者を多く募るためチラシを配布（特に児童などの参加を求めた）。
- ② 小学校、中学校に参加を要請。
- ③ 作業後の慰労と懇親を目的とした豚汁を提供した。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

濁川小、中学校、新潟北ライオンズクラブ

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ① 環境整備が目的であるが地域の人々が協力して作業をする意義や価値の再認識ができた。
- ② 小学生、中学生らが、来年も開催してほしいという希望が多くあった。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ① 工夫とは言いがたいが作業後の懇親の場として豚汁を提供した。
- ② 豚汁の提供は、人員不足から業者からの調達とせざるを得なかった。
- ③ 材料調達、調理、配食、後片づけなどは非常時における一連の訓練と懇親の場としたかった。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

- ① 年2回程度実施し、環境の整備効果を認識させたい。
- ② 共同作業の楽しさ、懇親の機会の増加を図りたい。



北区 岡方地区コミュニティ委員会

活動名：十二潟に係る施設整備事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

十二潟の案内看板が経年により劣化が進んでいたため、その歴史と植生を十分に紹介することができていなかった。また、小中学校の自然観察授業が活発になるとともに、地元住民・近郷からの観察者及び水辺愛護団体等の観察会が増加していたため、観察用デッキの手狭さが感じられていた。そのため、これら改善が急務となっていた。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

- ① 案内看板は、一部内容を手直ししてリニューアルすることにより、地元の宝を広くアピールするなど魅力発信を図ること。
- ② 観察用デッキは、現在あるデッキに近接させて増設し、より広範囲な観察を可能にするとともに、木舟乗舟場は安全面を考慮して新デッキ近くに移設すること。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

平成26年6月に創設された「新潟市潟の魅力創造市民活動補助金」を活用することにより、案内看板は、サイン表示面加工による長期用インクジェット出力加工及びUVラミを施した補修工事を行った。観察用デッキは、敷地を借用していることを考慮して、単管パイプとデッキボードを用いた長さ9.4m、幅1.2mの直線型仮設デッキを整備した。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

案内看板は(株)新潟造形に、観察用デッキは(株)井澤組に、それぞれ工事発注した。

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

案内看板をリニューアルすることによって、改めて十二瀧(古阿賀)の歴史と植生を紹介するとともに、瀧の魅力発信を図ることができるようになった。また、観察用デッキの新設は既設デッキとの併用により、小中学校の観察会ははじめ観察者の利便が確保されるとともに、安全面の向上が図られた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ① 案内看板は、文字・図面が見やすく長期保存に耐えられるよう工夫した。
- ② 観察用デッキは、工事場所にコンクリート塊があって苦慮したが、将来のデッキ増設につなげることができるよう工夫した。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

本活動成果の有効活用を図るとともに、区づくり予算事業の「十二瀧ブラッシュアップ支援事業」として、平成27年度からの3年間で保全活動の人材育成や絶滅危惧種(アサザ・ガガブタ)の調査、環境教育の充実、観察施設の増設等により瀧の魅力の充実を図ることを目的に行政と連携して、瀧舟の漕手育成教室の開催、瀧の観察施設づくり体験会の実施、学校と地域の環境保全発表会、保全状況の調査及び外来植物駆除体験会の実施等推進していく。

北区 松浜地区コミュニティ協議会

活動名：地域活性講座プロジェクト

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

本町通り商店街の活性化及び地域交流の拠点づくりのため、関係団体と話し合い地域で何とか取り組みが出来ないか考えました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

地域の交流施設で空家対策の一環として活用されている「こらぼ家」を会場として、講座等のイベントを開催することで、出来るだけ多くの人から本町商店街に足を運んでもらう。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

7月7日～7月31日	新潟地震の記憶パネル展	入場者約2,500人
11月27日	防災漫談講座	参加者 50人
1月21日, 3月16日	いきいきこらぼ体操	参加者 各17人

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

こらぼ家

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

各講座を通して松浜商店街に足を運んでもらうことで、地域の賑わいを醸し出すことができました。また、高齢者が元気に生活できるための知識を学んだり、子どもたちとふれあったりと、地域の憩いの場としての拠点づくりができてきたものと思います。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

集客の期待できる講座・イベント等の企画やその周知方法等（ポスター・チラシなど）に苦慮いたしました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

今後も継続していくことで、地域のつながりを深め、町全体で楽しめる場にしていきたいと考えています。





北区 濁川地区コミュニティ協議会

活動名：あいさつ運動

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

- ① 地域の人々がお互いに挨拶あるいは言葉を掛け合う姿が少ない。
- ② 児童が成人に挨拶しても返事が少ないか、タイミングが遅れる。
- ③ お互いに言葉を交わさないことは防犯などの面からも好ましくない。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

- ① 老若男女を問わず、路上などで会ったら挨拶を必ず交わす。
- ② 小、中学校にも呼びかけ、地域全域で実践する。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- ① のぼり旗を作成し、地域の要所に掲げて啓発を行った。
- ② チラシやステッカーを貼ったクリア・ファイルを配布した。
- ③ 年に4回程度、街頭などに役員などが立って通行者にPRを行った。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

濁川小学校、同中学校、JA濁川支所、新潟市濁川連絡所

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ① 今は挨拶を交わさない人は少ない。
- ② 高齢者の協力も徐々に増えた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ① いきなり「挨拶」といわれても気易くできなく、緊張感の開放に苦慮した。
- ② 勇気を奮って最初の一声が出れば後は自信になることが多くの人感想である。
- ③ 自信にあふれた大きな声がヒントのようだ。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

- ① 単なる挨拶ではなく、話す機会や共通な話題の提供としていきたい。
- ② 参加し易い催事、行事の企画、実践を図りたい。

